

大学院看護学研究科 博士前期課程		授業 科目	がん看護学特講 Advanced Cancer Nursing			担当 教員	鈴木志津枝(専任)	
開講年次	1年次前期	単位数	2単位	科目分 類	専門科目 実践看護学	授業形態	講義、セミナー	
選択必修	選 択	時間数	30時間			使用教室	S22教室	
授業の目的及びねらい		<p>がん患者や家族の理解や看護援助に活用できる諸理論を学び、それらの理論の臨床での応用について既存の研究成果や個々の体験に基づいて分析し、看護援助のあり方について追求する。これらを踏まえて、がん看護の独自の役割を開拓していく能力を育成する。</p>						
授業のキーワード		<p>ヘルスプロモーション, ストレス, 対処, 危機, エンパワメント, 自己効力感, セルフケア, 悲嘆, 変革理論</p>						
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画 (スケジュールの詳細は次ページを参照)							
第1回	がん予防と早期発見：がん患者とヘルスプロモーション (鈴木担当)							
第2回	ストレス状況にあるがん患者や家族の理解：ストレスコーピング理論の理解							
第3回	ストレスコーピング理論の実践への適用の検討(事例)							
第4回	危機的状況にある患者の理解：危機理論の理解							
第5回	危機理論の実践への適用の検討 (事例)							
第6回	がん患者や家族の持つ力1：エンパワメントの考え方の理解							
第7回	エンパワメントの考え方の実践への適用の検討 (事例)							
第8回	がん患者や家族の持つ力2：自己効力理論の理解							
第9回	自己効力理論の実践への適用の検討 (事例)							
第10回	がん患者と家族のセルフケア：症状マネジメントモデルの理解							
第11回	症状マネジメントモデルの実践への適用の検討 (事例)							
第12回	死別後の家族の理解：悲嘆理論の理解							
第13回	悲嘆理論の実践への適用の検討 (事例)							
第14回	現在のがん看護の実践を変革するために：変革理論の理解 (鈴木担当)							
第15回	変革するための具体的方策の提言 (プレゼンテーション)							
第16回	変革するための具体的方策の提言 (プレゼンテーション)							
テキスト								
参考文献	<p>文献は講義中に提示します。</p>							
成績評価の方法	<p>授業への参加度 (5%) 理論や概念に関する文献を用いたプレゼンテーションと事例への適用に関するプレゼンテーション(20%) がん看護実践を変革するための具体的方策の提言に関するレポート (75%)</p>							
教員から学生へのメッセージ	<p>授業内容及び計画で示した理論や概念に関する論文(文献)を概観し、看護実践事例を用いて適用に関して検討します。</p>							